

第3章 亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想（都市部編）

第3章 亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想（都市部編）

（1）亀岡まるごとガーデン・ミュージアム（都市部）の資源

1）名水

名水の大部分は農村部に点在するが、亀岡の名水¹に関連した場所は都市部及び周辺部にも存在する。例えば、城下町の成り立ちと関係した南郷公園と古世親水公園は、今日でも市民の憩いの場所として重要な役割を担っている。特に、外堀跡である古世親水公園では、現在でも伏流水が湧き出しており、地域の人々が野菜や洗濯物を洗う共同の洗い場として使用され、賑わっている。

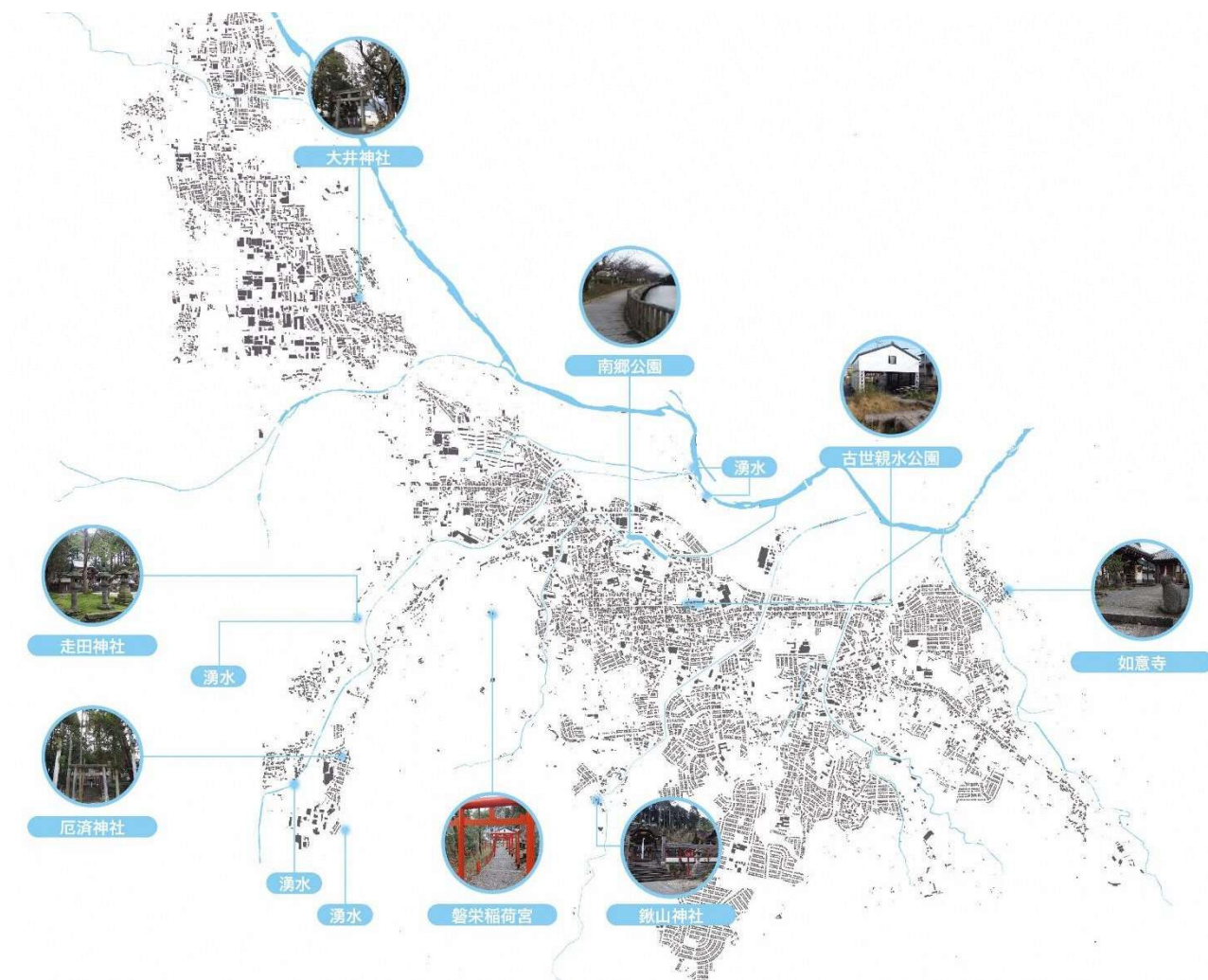


図3-1：都市部及び周辺地域における名水の分布

出典：小盆地宇宙 亀岡の名水



古世親水公園



洗い場（古世親水公園）



南郷公園

¹ 本編第1章4（2）1）、24頁参照

2) 名木

都市部及び周辺地域の名木・準名木¹とその立地条件を、観光振興や街づくりの資源としての視点から、幾つかのタイプに分類した。

①ランドマークタイプ

街を歩いているとふと目に止まり、街の歴史を感じさせる。写真スポットとして適している場合も多く、街歩きマップ等に場所を明記するなどの多様な活用方法が考えられる。

【主要な該当例】余部八幡宮、秋葉神社、亀岡小学校校門前、京町天満宮、亀岡高校グラウンド横、南郷池畔、雑水川堤、篠村八幡宮（旗立楊）



雑水川堤のエノキ



秋葉神社のイスノキ



篠村八幡宮の旗立楊

②御神木タイプ

名水や伝承のある場所と重なっている場合も多く、観光名所の見どころとして活用することも可能である。

【主要な該当例】走田神社、村山神社、王子神社、篠村八幡宮、桑田神社



王子神社のツブラジイ



桑田神社のツブラジイ



村山神社のモッコク

③期間限定観賞タイプ

アクセスが制限された場所にあり、日常的には観覧できないため、イベント時（名木ツアーなど）にのみ、特別に観覧できることで付加価値をつけることができる。

【主要な該当例】専念寺、亀岡小学校、各民家の名木

¹ 本編第1章2（5）、15頁参照

④隠れ名木タイプ

敷地へのアクセスは制限されていないが、看板が設置されていない、もしくは名木自体が一目では見つけることが難しい場所に生えている。各場所の入り口か街歩きマップに案内図（拡大図）を載せるなど、アクセスを改善することでより多くの人に周知する必要がある。

【主要な該当例】大圓寺、形原神社、宗蓮寺

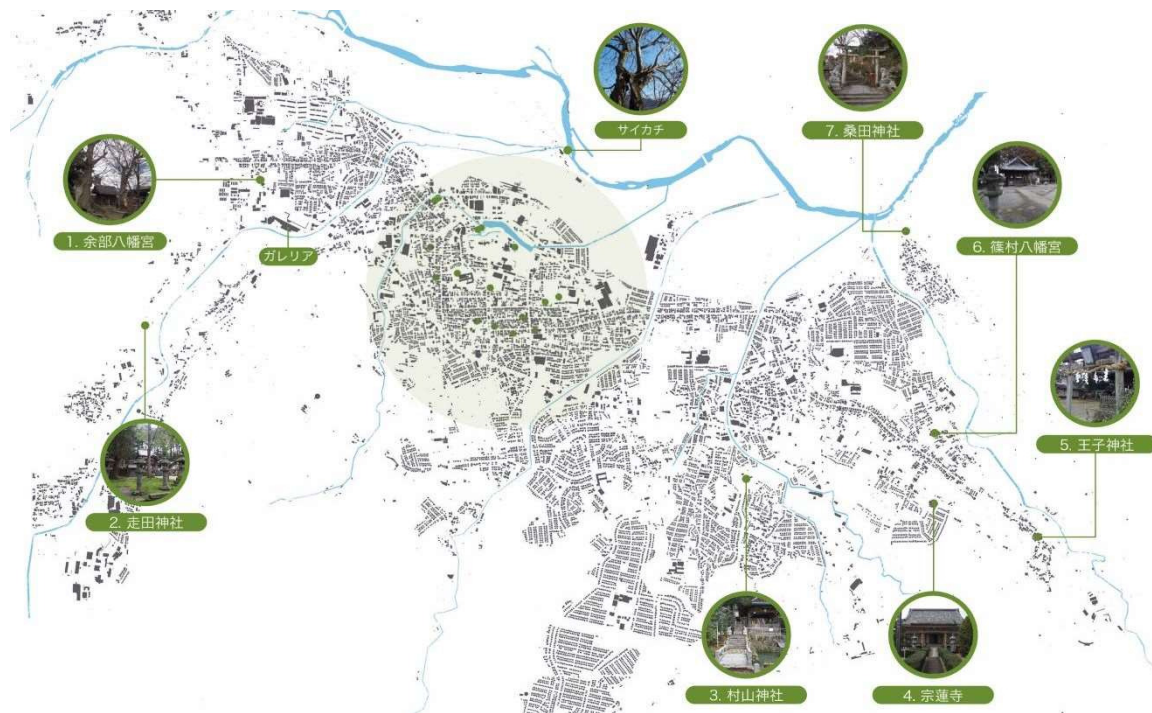


図3-2：都市部及び周辺地域における名木の分布

出典：亀岡の名木



図3-3：城下町及び周辺地域における名木の分布

出典：亀岡の名木

表 3-1 : 都市部及び周辺地域の名木とその由緒

地図番号	場所	ランク	樹種	名木の由緒など	寺社・場所の由緒など
1	余部八幡宮	名木	ケヤキ	第42回全国植樹祭京都みどりの祭典記念(1991)の「京の名木」指定	応神天皇を祭神としているが、創建に関わる諸事情の記録はない。
2	走田神社	名木	ナギ	亀岡には自生せず、数本植栽された中で一番の大木	奈良時代和銅4年(711)創建、祭神は神話「海幸・山幸」の彦火火出見命、豊玉姫命とその子である。
3	村山神社	名木	モッコク	亀岡市内のモッコクの中で一番の古木	延喜式神名張にも掲載されており、本殿の祭神は大山折命・木花咲耶姫命。八幡宮は応神天皇、仁徳天皇。室町時代応永27年(1420)浄法寺城主が社を再興した。
		準名木	モミ	—	
		準名木	コウヤマキ	—	
4	宗蓮寺	名木	ヤマモモ	毎年参拝者が身を拾うのを楽しみにしている	元和元年(1615)大阪冬の陣で敗れた豊臣家の落人が前非を悔い出家し栗山伊予守となって創建した。
5	王子神社	名木	ツブラジイ	神社の主も言え、しめ縄が張られ神々しさを増している	祭神である二柱の神は天津神の命を受けて国を治めた夫婦の神で、天照大神の親神である。縁結び、夫婦和合、延命長寿の御神徳がある。旧山陰道に面し京へ行く唯一の街道であったため旅人の往来があった。明治時代に道路が境内地を通るまでは、木が茂っているために「闇宮(くらのみや)」と呼ばれていた。
		準名木	モミ	—	
		準名木	クスノキ	—	
		準名木	カヤ	—	
		準名木	カリン	—	
6	篠村八幡宮	名木	ツブラジイ	—	祭神は応神天皇、仲哀天皇、神功皇后。歴代の天皇が度々使いを遣わして疫病や疫の神が京都に侵入することを阻止するために祈願をこめたと伝えられる。元弘3年(1333)足利高氏が鎌倉幕府倒幕にあたり戦勝祈願した場所として有名。
		準名木	クスノキ	—	
7	桑田神社	名木	イロハモミジ	枯死した	祭神は大山作命、市杵島姫命、大山祇命。また水神「水波能売命」が祀られ、保津峡の両岸に右岸の讀田神社と対になって(江戸時代には山本讀田神社と呼ばれていた)、川仕事をすると人々見守り、保津川下りの船頭からも信仰が厚い。
		準名木	ツツブラジイ	—	
8	大圓寺	名木	モッコク	—	天文22年(1554)に建立され、専掌周公上人を開山とする浄土宗の寺院であり、明智光秀による亀山城築城に伴い城の西に移転された。寛永20年(1625)頃に2度焼失したが、宝永7年(1710)に寺域を縮小して再建された。本堂と庭、庫裏は享保10年に整備。
		準名木	クロマツ	—	
		準名木	イヌマキ	—	
9	秋葉神社	名木	イスノキ	葉にできる虫溜をヒューと鳴らして神輿の供奉をする	1700年代に藩主であった青山忠重が、度々発生する城下町の火災対策に、前任地の浜松で信仰されていた秋葉山の火伏の神「秋葉三尺坊」の神霊を勧請し、防火を願ったとされている。
		準名木	イチヨウ	—	
10	亀岡小学校	名木	オガタマノキ	亀山城内に植えられていたもので倒せば水が出ると思われていた	明治4年、呉服町太田敬之氏の居宅に創設された。
		名木	ミツマタ	—	
		準名木	クスノキ	—	
		準名木	桜ヶ丘のエノキ	—	
11	専念寺	名木	クロマツ	樹齢380年で8本の枝を伸ばす。	天正2年(1574)の創建で、王蓮を開基として法山和尚(織田信長)を開山とされている。本尊の阿弥陀如来は約1 mの立像で、聖徳太子作と伝わる。
		名木	イブキ	—	
		準名木	ヤマモモ	—	
12	形原神社	名木	テンダイウヤク	テンダイウヤクは不老不死の仙薬として享保年間に渡来したとされ、亀岡には幕府から亀山城に下賜された。現在の株は明治13年の神社創建の際に移植されたものとされる。	
13	京町天満宮	準名木	サトザクラ	—	祭神は菅原道真公で、もと宝蔵寺の境内に祀られていたが、お寺は現存せず天満宮だけが残った。
14	小林邸	準名木	ゴヨウマツ	—	—
15	糟谷邸	準名木	ツガ	—	—
16	通夜稲荷大明神	準名木	ケヤキ	—	調査中
		準名木	エノキ	—	
17	亀岡高校	準名木	ソメイヨシノ	—	明治37年の亀岡府立高等女学校・農学校を前身とする。
18	大本本部	名木	コノハナザクラ	小泉源一京大名管教授と竹内敬園長の研究によりヤマザクラの新変種であると判明し木花咲耶姫命(古事記)にちなんで名付けられた。平成6年に三重で同種が見つかるまで亀岡のみの珍種であった。	大本花明山植物園は、大本三代教主出口直日師によって開演。絶滅危惧の万葉植物など、野草を中心に約1000種を植栽。
		名木	大イチヨウ	天正6年(1578)明智光秀が築城時に手植えたと伝わり「亀岡音頭」にも歌われるが、江戸時代に台風で倒れており、その時に若木を植えた記録が残っている。	
		名木	エノキ	—	
		準名木	ムクノキ	—	
19	南郷池畔	名木	エノキ	根元の祠を根が持ち上げている。樹齢数百年と考えられ、南郷池のシンボル・神木として市民に親しまれている。	
20	国岩稲荷大明神	準名木	ムクノキ	—	調査中
21	雑水川堤	名木	エノキ	昔は同様な大木のエノキが3本並んでいたが、2本は伐採された。当時は大木を切ると祟があるとの話も出た。現在はしめ縄が張られ、ご神木として、崇められている。	
22	楽々荘	準名木	クロガネモチ	—	山陰本線の生みの親、田中源太郎の旧邸宅で、七代目小川治兵衛(楠治)が庭園を作庭している。
		準名木	イヌマキ	—	

出典：亀岡の名木・故郷鎮守の森 亀岡神社誌

3) 城下町

近世初期、近世城郭建設の先駆けとなる都市づくりを含めた軍事拠点建設が行われた。保津川を天然の堀として利用するために本丸を北に寄せ、水害を避けて南の段丘に配置した城下町に村人を移住させた。また、城下町には山陰道を取り込み、山陰地方への軍事交通の要所とした。京口からの街道を南にずらしたり、短冊状の道をカギ型に入れ違いさせたりと、見通しを敢えて悪くした工夫もみられる。「亀山」の地名の初見は、天正5年の明智光秀の書状であるが、「亀山」は、神仙思想による山が亀によって支えられ、長寿延命で金銀財宝が満ちた世界である中国の蓬莱山の異名でもあり、縁起が良いと考えたためであると伝えられている。現在「亀岡」が使用されているのは、明治初期の版籍奉還で伊勢亀山との混同を避ける為に変更された。

亀山城が近世城郭として完成するのは、大坂城への対抗措置として行われた「天下普請」の大規模工事後である。慶長15(1610)年に、城造りの名人と呼ばれた藤堂高虎が、層塔型の五層天守と内堀・外堀・惣堀の三重の堀を持つ亀山城を完成させた。現在でもこの大工事の様子を石垣から伺い知ることができる。石切場であった行者山山麓と城址の石垣に築城に関わった大名の刻印が残されており、25種も見つかっている。当時の亀山城は、城内で東西約900m、南北約500m、城下町は東西約1400m、南北約500mに及ぶ大規模なものであった。城の天守は約31mあったとされている。

江戸時代の城下町に暮らしていた町人の記録が残っており、1673年～1838年頃まで人口は5,000～6,000人ほど、1,200軒ほどの家が並んでいたことがわかっている。また、「亀山記」(延宝年間：1673～1681年)によると、多種多様な職人が暮らしていたことが伺い知れる。城下町の町家は特に山陰道付近に保存状態良く現存しており、(一社)亀岡市観光協会が散策マップや町家の魅力を伝えるリーフレットを発行している。



図3-4：京都・亀岡城下町散策 MAP

出典：(一社) 亀岡市観光協会



城下町に残る町家



城下町の様子と山鉾の蔵

4) 祭事

江戸時代からの記録が残り、市民にも幼い頃から親しまれている亀岡祭の山鉾巡行や、他府県からも人々が訪れる大本本部の七草粥など、亀岡には一年を通じて観光資源としてPRできる伝統的な祭事が数多く存在する。



図3-5：都市部及び周辺地域の主要な祭事

表3-2：山鉾（亀岡祭）の種類と由来

名称	種類	町名	御神体	人形飾りの特徴や由来
鍬山	鉾	北町	鍬山大明神	白髪 of 老人が鍬を持つ姿
八幡山	鉾	西町	八幡神	白髭 of 老人の姿
武内山	鉾	紺屋町	武内宿禰	大和朝廷 of 大臣と伝えられ、鎧姿で幼子の応神天皇を抱く姿
高砂山	鉾	柳町	尉(老夫)と姥(老婦)	能 of 高砂に由来し、尉は熊手を姥は箒を持った姿
三輪山	鉾	本町	大物主命	能 of 三輪に由来し、大和大神神社 of 祭神で女神形
蛭子山	山	塩屋町	恵比寿神	七福神で親しまれる恵比寿
難波山	鉾	矢田町 京町 上矢田町	王仁博士	日本書紀等で論語などを日本に伝えたと言われる
稻荷山	山	新町 旅籠町	倉稻魂命	お稲荷さんとして広く信仰されている
浦島山	山	呉服町	浦島太郎	寛政7年(1795)に制作され、1987年に新調された
羽衣山	鉾	西堅町 東堅町	天女と漁師	能 of 羽衣に由来
翁山	鉾	三宅町	黒色尉	能 of 翁姿(1989年に新調された)

出典：亀岡市文化資料館 常設展示テーマ解説書

5) 緑地・公園

亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想の中での位置付けや活用方法を探ることを目的に、住区基幹公園、都市基幹公園の現在の整備状況や特性を整理した。公園の立地条件や観光資源のタイプ別に5つのパターンに分類でき、それぞれの特性を生かした整備による公園の魅力向上が期待される。

①借景タイプ

公園の植栽帯の向こうに盆地を縁取る山並みを臨むことができる。特に、つつじヶ丘の公園群は重要な景観要素である牛松山が見える立地にあることが多い。山並みへの眺望を配慮した植栽の剪定や、近隣の建築物の高さ制限などにより、亀岡らしい盆地の景観を活かした公園へと整備されることが期待される。

【該当する公園】(11)西つつじヶ丘公園、(12)ぐみ谷公園、(15)大日谷公園、(16)桜台アゼリア公園、(17)ちとせ山公園、(18)ひのき谷公園、(19)ひのき谷北公園、(20)前山南公園、(22)東つつじヶ丘公園、(23)山本ふれあい公園



大日谷公園



ぐみ谷公園

②水辺隣接タイプ

河川や池などの水辺が公園の一部となっているか、隣接している。河原町公園の場合は、河川と公園がフェンス等により隔てられており、河川と公園の一体化が望まれる。また、大藪公園・南郷公園・古世親水公園も、護岸の多自然化などによるさらなる魅力向上が期待される。

【該当公園】(5)大藪1・2号公園、(7)河原町公園、(8)南郷公園、(9)古世親水公園



大藪1号公園

③遊水地タイプ

記録的豪雨時に、遊水地としての機能を果たす。気候変動による集中豪雨の増加が予測されており、遊水機能を持った公園の必要性は今後増していくと考えられる。また、水位変動を活かして亀岡の氾濫原的湿地環境を再生することで、防災・減災と生物多様性の保全を両立することも可能である。また、「増水時には利用を控える、避難する」といった公園の利用に関する情報の伝達（看板やわかりやすいサインなど）についても検討する必要がある。

【該当する公園】(1)大成公園、(3)大井西部公園、(18)ひのき谷公園

【遊水地タイプへの変更が可能な公園】(5)大藪1・2号公園、(7)河原町公園



大井西部公園



越流を想定した縁（大成公園）



ひのき谷公園に隣接する調整池

④歴史的・文化的背景を有するタイプ

公園の設立背景に歴史的由緒がある、もしくは、文化的景観が残る地域に立地している。公園のデザインに歴史的要素が活かされていない場合も多い。歴史的背景や場所の特性を活かすことで、地域らしさを醸し出せるような整備が望まれる。

【該当する公園】(2)鉄道歴史公園、(7)河原町公園、(8)南郷公園、(9)古世親水公園、(10)坂部公園、(13)ぐみ谷南公園、(23)山本ふれあい公園



かつては山城であったぐみ谷南公園



城下町の惣構に隣接する坂部公園

⑤眺望タイプ

パノラマが広がり、街を取り囲む盆地地形を堪能することができる。公園へのアクセスの改善や案内の充実により、亀岡の絶景スポットとしての活用が期待できる。

【該当する公園】(6)平和台公園、(21)前山東公園



平和台公園の展望台からの眺め

⑥その他

既出の5つのタイプには属さない公園。各立地条件や地域住民の要望を取り入れ、公園の魅力を向上させる再整備が期待される。特に、大日谷北公園は、つつじヶ丘の緑道の中心に位置し、該当地域の緑の拠点として重要である。

【該当する公園】(4)南金岐雨蛙公園、(14)大日谷北公園、(20)前山南公園

6) 花壇・プランターによる緑化

NPO亀岡・花と緑の会、亀岡市都市緑花協会により交差点や駅前に花壇が整備されており、地域の要所における花と緑が一定量確保されている。今後は、郷土色豊かな植栽へと質を変化させていくことで、亀岡らしさ・地域らしさを演出する拠点となることが期待される。また、雑水川側沿いの花壇、城下町南の国道9号線沿いの花壇、東輝中学校前の生徒による花壇など、市民の自主的な取り組みとの連携を図ることで、コミュニティのつながりの強化や緑による街の一体感の醸成が期待できる。



(0) 千代川駅前



(1) 並河駅前



(2) 河原町スポット花壇



(3) 市役所前



(4)-1 亀岡駅前



(4)-2 クニッテルフェルト通り



(5) 馬堀駅前



(6) つつじヶ丘スポット花壇



(7) つつじヶ丘緑道



(8) ひのき谷公園



雑水川



東輝中学校前の生徒による緑化

地域を花と緑で彩る際、城下町などの伝統的な街並みの雰囲気を損ねることなく緑化を推進していくことも重要である。その手法の手がかりの一つとして、城下町や篠地区の随所で見られる酒樽や竹、木材を用いたプランターによる緑化が参考となる。



伝統的建築物に馴染む緑化



街並みに溶け込むプランター



竹を用いたミニプランター



さりげなく添えられた草花



酒樽を用いたプランター



図3-6：住区基幹公園、都市基幹公園及び主要な花壇・プランターによる緑化地点

7) その他の重要な緑の拠点

①大本花明山植物園

南郷池に面した大本天恩郷境内にあり、駅前からのアクセスもよく、年中無休、入園料無料で 8:30～17:00 まで開園している。コノハナザクラをはじめとした樹木、絶滅危惧種も多い万葉の植物など、野草を中心に約 1,000 種を植栽している。南郷池の水を活用して湿性植物を育てるなど、立地もうまく活かしている。毎月リーフレット「花だより」でその月の見頃の花を紹介しており、都市部のフィールドミュージアムの拠点となり得る。



図3-7：大本花明山植物園 園内マップ

出典：大本花明山植物園 3月の花だより

②楽々荘

山陰本線生みの親である田中原太郎の旧邸宅で、現在は国登録文化財となっている。書院造の和館とレンガで造られた洋館が、和洋折衷の明治時代の趣を伝えている。敷地の池泉回遊式庭園は、七代目小川治兵衛（植治）の作品である。



楽々荘

8)「NPO亀岡・花と緑の会」の主要な活動

20 年前に花の愛好家が集まり、団体が発足した。現在の会員数は 50 名程で、20 年以上所属している熟練した技術を持つ会員も多い。特に、ハンギングバスケットの技術は全国的にも評判で、ハンギングバスケットマスター認定者が 6 名程所属している。一年を通した主要な活動は下記の通りである。

○花と緑の街づくりの促進に関する主要な活動

- 亀岡駅前フラワーロード植え替え (10 月, 11 月)
- クニッテル市民緑化プロムナード・西つつじヶ丘スポット緑地植え替え (6 月, 11 月)
- 市庁舎・ガレリアかめおか植え替え (5 月, 10 月)
- 光秀まつり街角花飾り 40 作品展示 (5 月)
- 亀岡祭城下町花飾り 48 作品展示
- トクサで器を作るミニ体験教室 (10 月)
- トロッコ花飾り (5 月, 2 月)
- 余部町文化祭・曾我部町文化祭 (11 月)
- 北町ひな祭り・ひなの寄せ植え教室 (3 月)
- 寄せ植え・ハンギングバスケット教室 (10 月)
- 寄せ植え・ハンギングバスケット教室～葉牡丹を用いたお正月版～ (12 月)
- テーブルアイランド ジオラマ用植物選びと植え込み指導 (5 月)
- 亀岡園バラ苗植え付け (12 月)

○花と緑の普及啓発に関する主要な活動

1. 花と緑のフェスティバル (4 月)
 - 市民寄せ植え体験教室
 - ステージにてデモンストレーション
 - 寄せ植え、ハンギングバスケット作品展示
2. ばらフェスタ、オープンガーデンかめおか (5 月)
 - マルシェ
 - コンサート
 - バラ苗販売
 - 押し花教室
3. ガレリアバラ園バラの相談会 (5 月)